

亀田の歴史

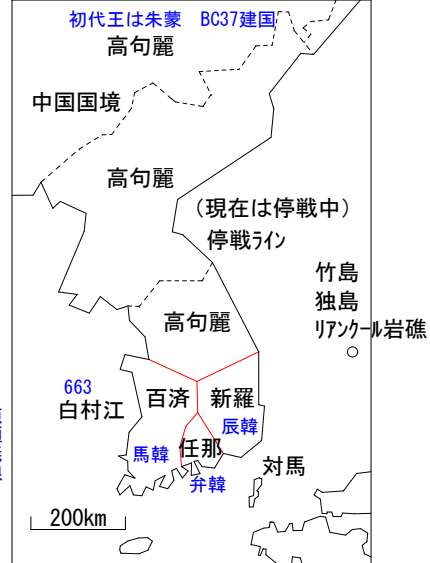
16万年前、アフリカ南東部に、ホモ・サピエンス・イダルトゥが出現。ホモ・サピエンス・サピエンスに進化し、世界中に散らばる。ミトコンドリア・イブ。Y染色体。

ムラの時代 釈迦誕生はBC463年(2500年前) キリスト誕生はBC4年(2000年前) ムハンマド誕生はAD570年頃(1500年前)
石器時代 4万年前にアイヌ人が、2万年前に沖縄人が到来。混血し原日本人となる。
縄文時代 1万年前〜BC300 末期の550年間、中国は春秋戦国時代。秦の始皇帝中国統一
弥生時代 BC300〜AD250 米作りが始まり、争いが起こる。
古墳時代 250〜592(342年間) 大和朝廷(政権王権)発足。

天鷲速男の時代
飛鳥時代 658〜660 阿部比羅夫 水軍180隻を率いて日本海側をロシアまで遠征。鳥海山麓の豪族 振名 が随行する。
592〜710 660 百済滅亡 百済⇒新羅+唐
118年間 668 高句麗滅亡 高句麗⇒新羅+唐

奈良時代 710〜794 84年間
本州人の系統 中国系26% 韓国系24% 沖縄系16% アイヌ系8% 日本系5% その他21%

由利氏の時代
平安時代 802 天鷲速男 滅ぶ 出羽八郎維名(振名の子孫?) +坂上田村麻呂
794〜1185 1051〜1062 前九年合戦 安倍貞任 藤原経清⇒源頼義+清原武則
391年間 1083〜1087 後三年合戦 清原家衡⇒清原(藤原) 清衡+源義家
1185 由利八郎維友 真坂次郎(上直根)に襲われ、天鷲城に逃れる
鎌倉時代前期 1189 奥州合戦 藤原⇒源頼朝 源義経 由利仲八維平
1185〜1212 1190 大河兼任の乱 維平、大河兼任に、毛々左田で討たれる



第1次由利十二頭の時代
鎌倉時代中後期 1213 由利維久 和田の乱での濡れ衣で、所領を没収される。
1213〜1333 1233 大式局 由利郡を賜るが、子無く、甥の小笠原大井朝光に譲る。
121年間 1233 維久 許されて、西目の浜館に入る。
1324 由利仲八維政 仁賀保の鳥海弥三郎宗盛に滅ぼされる。維貴 信州に逃れる

室町時代前期 1339 由利維貴、光貞 朝保 光泰 を伴い、松ヶ崎に上陸。
1333〜1466 1339 小笠原光貞 大野築館に入り、赤尾津を名乗る。天鷲城は荒廃。

第2次由利十二頭の時代
室町時代後期 1467 幕府の命により、新十二頭下向。
1467〜1573 1572 赤尾津左衛門尉家保 大曲の前田 角館の戸沢 に討たれる。
107年間 1582 庄内 大宝寺氏に攻められる。赤尾津二郎 小助川図書 安東愛季 これを防ぐ。
1582 横手 小野寺氏と戦う。
安土桃山時代 1573〜1603 1588 由利諸頭 矢島満安 を攻め、西馬音内城に追いやる。
30年間 1600 慶長出羽合戦 上杉景勝 直江兼続⇒最上義光+伊達正宗
由利十二頭は、不戦の罪で罰せられる。
関ヶ原の合戦。石田三成⇒徳川家康

最上義光の時代
江戸時代 1603 最上義光 由利郡を与えられる。赤尾津城には
1603〜1868 1612 楯岡満茂 本荘に移る。赤尾津城は廃城。
265年間 1615 大坂夏の陣。
1622 最上氏 お家騒動により改易。

本多正純の時代
1622 本多正純 宇都宮15万石から、由利5万5千石に転封されるが、これを拒絶。
1623 本多正純 由利領を没収される。身柄は久保田藩に預けられる。
秋田藩の希望により、由利領の百三段郷3ヶ村と秋田領の大沢郷4ヶ村が、交換される。

岩城氏の時代
1623 由利郡は、亀田藩 本荘藩 矢島藩 仁賀保藩の4藩に分割される。
亀田には、岩城吉隆が、信濃川中島1万石から入る。

由利維貴 岩倉館(川口岩倉)
小笠原朝保 岩谷館
大井光泰 矢島八森古城

改易 赤尾津
幕臣 仁賀保 打越
最上 滝沢 岩谷 石沢

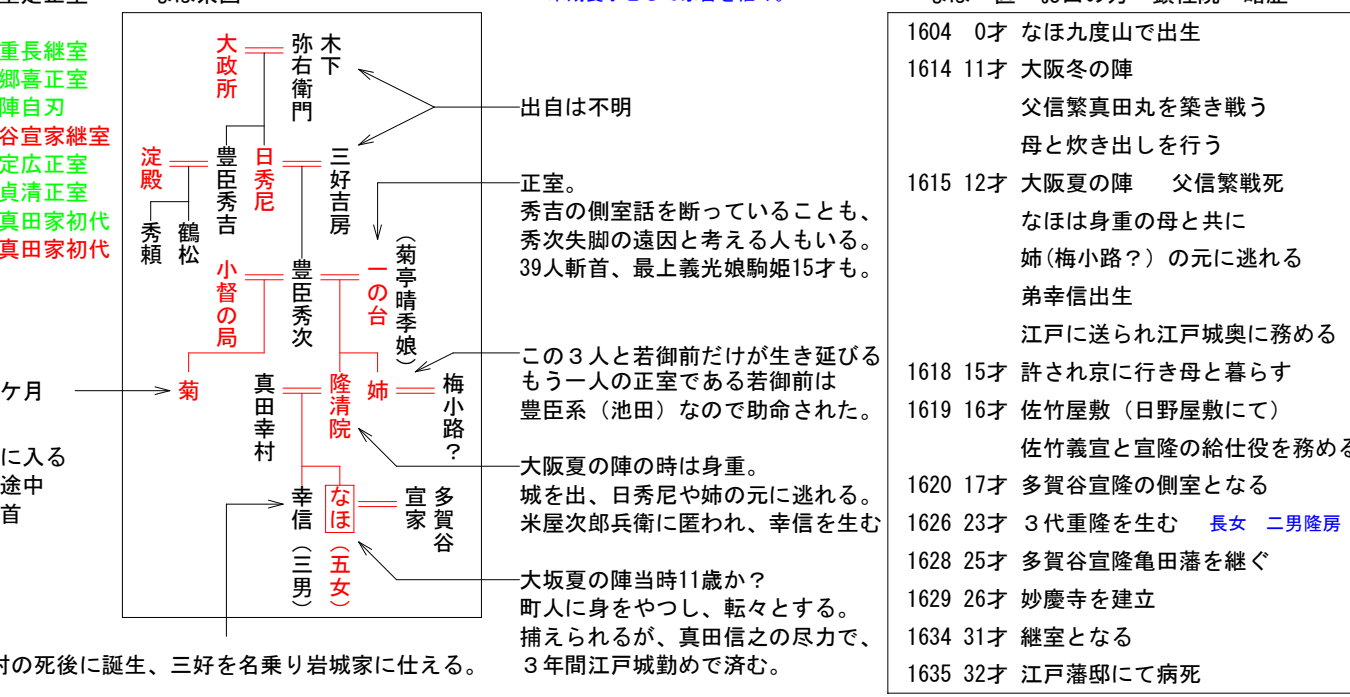
岩城氏の動き
1600 慶長出羽合戦不戦
1602 岩城藩12万石改易
1615 大阪の陣は徳川方
1616 信濃中村藩1万石
1623 亀田藩2万石

所在地
信濃中村藩(川中島藩)
長野県下高井郡木島平村中村
真田本城
長野県上田市真田町長
大井朝光(大井城)
長野県佐久市岩村田

佐竹 茨城県 岩城 福島県浜通 多賀谷 秋田県能代市松山 岩谷堂伊達 岩手県奥州市 伊達 米沢⇒宮城県



御田の方(なお)の兄弟
上田生まれは、長女と二女の二人だけ
☆印は伊達を表す
母 堀田興重娘
母 高梨内記娘
母 大谷吉継娘竹林院(正室)
母 豊臣秀次娘隆清院



幸村の死後に誕生、三好を名乗り岩城家に仕える。